

令和 4 年度
教職課程自己点検評価報告書

令和 6 年 3 月
鹿児島純心女子短期大学

目次

I 教職課程の現状及び特色

II 基準領域ごとの教職課程自己点検評価

基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目 1-1 教職課程に対する目的・目標を共有

基準項目 1-2 教職課程に関する組織的工夫

基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援

基準項目 2-1 教職を担うべき適切な人材（学生）の確保・育成

基準項目 2-2 教職へのキャリア支援

基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム

基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

基準項目 3-2 実践的指導力養成と地域との連携

III 総合評価

IV 現状基礎データ一覧

I 教職課程の現状及び特色

1 現状

(1) 大学名：鹿児島純心女子短期大学

学科名：生活学科こども学専攻、食物栄養専攻、英語科

所在地：鹿児島県鹿児島市唐湊4丁目22番1号

(2) 学生数及び教員数（令和4年5月1日現在）

学生数：生活学科こども学専攻	教職課程履修	80名／専攻全体	80名
----------------	--------	----------	-----

生活学科食物栄養専攻	教職課程履修	17名／専攻全体	70名
------------	--------	----------	-----

英語科	教職課程履修	8名／学科全体	78名
-----	--------	---------	-----

教員数：生活学科こども学専攻	9名
----------------	----

生活学科食物栄養専攻	6名
------------	----

英語科	11名
-----	-----

2 特色

鹿児島純心女子短期大学は純心聖母会を母体として、「聖母マリアのように神さまにも人にも喜ばれる女性の育成」を建学の精神として1960年鹿児島県内初の私立短大として創立されたカトリックの女子高等教育機関である。

教職課程においては、1979年に英語科、2002年こども学専攻が開設され、2004年には保育士資格に加え幼稚園教諭二種免許状の課程認定を受け、2005年からは食物栄養専攻に栄養教諭二種免許状が取得できる教職課程を設置した。現在、生活学科こども学専攻で幼稚園教諭二種免許状、同学科食物栄養専攻で栄養教諭二種免許状、英語科で中学校教諭二種免許状外国語（英語）の取得が可能である。

こども学専攻では学生のほとんどが幼稚園教諭二種免許状・保育士資格の取得を希望し、大半が保育所・幼稚園、認定こども園へ就職している。栄養教諭は県の栄養教諭採用枠が少なく現職での就職が難しいため、希望する学生には期限付き採用を支援し卒業後も希望者には本採用に向けて継続的に支援し教員採用試験合格者を出している。英語科も鹿児島県の中学校英語教諭に短大から現役で採用されることが難しい状況の中、現役合格者を出している。

II 基準領域ごとの教職課程自己点検評価

基準領域 1：教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目 1-1 教職課程教育に対する目的・目標を共有

①教職課程教育の目的・目標を、「卒業認定・学位授与の方針」及び「教育課程編成・実施の方針」等を踏まえて設定し、育成を目指す教師像とともに学生に周知している。

②育成を目指す教師像の実現に向けて、関係教職員が教職課程の目的・目標を共有し、教職課程教育を計画的に実施している。

③教職課程教育を通して育もうとする学修成果（ラーニング・アウトカム）が、「卒業認定・学位授与の方針」を踏まえて具体的に示されるなど、可視化を図っている。

【現状説明】

建学の精神をもとに、キリスト教ヒューマニズムに基づく人間教育により、豊かな人間性と高い専門的能力を備えた女性を育成し、社会の持続可能な発展と平和の貢献できる人材を輩出することを目的とし、基本方針に基づき「卒業認定・学位授与の方針」及び「教育課程編成・実施の方針」等の三つの方針を定めている。これらを踏まえ、本学の教職課程は、「豊かな人間性と高い専門的能力を備えた教員、真の意味で社会の発展と平和に貢献できる教員の養成」を目標に、本学が与えられた社会的・地域的使命に応えるべく、次世代を担う教育者を養成している。この教職課程における教員養成の目的・目標と育成・目指す教師像について学生に周知し、『学生便覧』・カリキュラム・ツリーを公式サイトなどで示している。また、入試説明会、オープンキャンパス等の機会にも周知を図っている。

育成を目指す教員像の実現に向けて、教職課程の教員のみならず学科専攻のスタッフ全員がカリキュラムの目的・目標を共有し、教職課程委員会が中心となり教職履修者の指導を実施している。教職課程の目標を達成するために、学科専攻ごとの教育課程編成・実施の方針においてアセスメント・ポリシー「教育プログラム単位の学修成果の可視化と査定」において達成度について可視化し査定している。その実施状況確認のための自己点検や改善のための FD・SD 研修会を計画的に実施している。

【長所・特色】

こども学専攻の特色は、資格関連科目が専門教育科目のほとんどを占め、開設科目・設置単位数は、文部科学省や厚生労働省の定めによって規定され、「こども学」の学びを深め「反省的実践家」をモデルとした保育者を養成するカリキュラムとなるよう編成している。この特色を生かし、体験的な学びの機会となる学内外での実習をチェックポイントとしている。学修成果が概ねカリ

キュラムを通して獲得される構成となっており、幼稚園教諭二種免許状は卒業要件と同じ 62 単位で取得可能となるようカリキュラムの改善を行った。

食物栄養専攻の主な特色としては、栄養士資格関連科目が専門教育科目のほとんどを占め、開設科目・設置単位数は、厚生労働省の定めによって規定されており、食に関する総合的、体系的知識と技能を深めるカリキュラムとなるよう編成されている。それに加えて栄養教諭二種免許状取得に必要なカリキュラムを学修することとなっており、在籍する学生の 2 割程度が栄養教諭二種免許状の取得を目指している。

英語科の特色は、国際的センスや異文化間コミュニケーション能力を磨くとともに、英語教育に対する情熱や使命感、教育的愛情に溢れた豊かな人間性と教科指導、生徒指導等に関わる実践的な指導力を兼ね備えた中学校英語教諭の養成を目標としていることである。中学校教諭二種免許状外国語（英語）の取得が可能であり、在籍する学生の約 1 割～2 割が教職免許の資格取得を希望している。

【取り組み上の課題】

こども学専攻では、今日の教育現場に求められる要望を踏まえた専攻の特色を反映する目標の具現化や情報通信技術の活用増進、改善したカリキュラムを踏まえた履修指導の在り方の検討が課題である。

食物栄養専攻・英語科では教職専門科目が卒業単位として認められていないことから、教職履修者の履修科目数が多く、授業の事前事後学修を合算すると学生の負担が大きいことも課題である。また、教職課程の履修者数が減少していることが課題である。

【根拠となる資料・データ等】

『学生便覧』、シラバス、履修モデル、カリキュラム・ツリー、公式サイト、アセスメントプラン、教授会議事録、教職課程にかかる内規、教職課程委員会要項、教職課程委員会議事録

基準項目 1-2 教職課程に関する組織的工夫

- ①教職課程認定基準を踏まえた教員を配置し、研究者教員と実務家教員及び事務職員との協働体制を構築している。
- ②教職課程の運営に関して全学組織（教職課程センター等）と学部（学科）の教職課程担当者で適切な役割分担を図っている。
- ③教職課程教育を行う上での施設・設備が整備され、ICT 教育環境の適切な利用に関しても可能となっている。
- ④教職課程の質的向上のために、授業評価アンケートの活用を始め、FD（ファカルティ・ディベロップメント）やSD（スタッフ・ディベロップメント）の取り組みを展開している。
- ⑤教職課程に関する情報公表を行っている。

⑥全学組織（教職課程センター等）と学部（学科）教職課程とが連携し、教職課程の在り方により良い改善を図ることを目的とした自己点検評価を行い、教職課程の在り方を見直すことが組織的に機能しているか、させようとしている。

【現状説明】

本学は文部科学省が示す教職課程認定基準を踏まえ、教職課程を担当するにあたり十分な教育研究業績を有する教員および現場経験のある教員を配置している。

また教職課程を適切に実施するために「教職課程委員会」を設置している。この委員会は教職課程の認定を受けている学科の教職専任教員 4 名、事務局長、教務課の事務職員 5 名で構成されており、協議・決定されたことについては教務委員会等の各種委員会、各学科の教職課程担当者、関係部署と共有し運営している。

教職課程の学修を行う上での施設・設備として、全館 Wi-Fi 環境を整備、各教室にプロジェクター、スクリーン、電子黒板などの設置、ラーニングコモンズや 3 つの PC 教室、メディアホールを有し、ICT 教育環境に必要な機器や備品を整備している。

教職課程の質向上については、前期と後期に行われる授業評価アンケートを活用している。評価アンケートの結果から各自の授業を振り返り、その質の向上に努めている。

教職課程に関する情報については、「教育職員免許法施行規則第 22 条の 6」の定めに則り公式サイト上「教育情報」において「1 教員養成の理念と目標」「2 鹿児島純心女子短期大学における教員養成のプロセス」「3 教員養成に関わる教員および担当科目一覧」「4 卒業者の教員免許状の取得の状況」「5 卒業者の教員への就職の状況」「6 教員の養成に係る教育の質の向上に係る取組」を公表している。

【長所・特色】

教職課程委員会は少人数で構成されている為、学生への指導等にあたり情報共有や協力体制の構築が出来ている。

【取り組み上の課題】

教職課程の質的向上のための FD・SD の推進を進めていく必要がある。

【根拠となる資料・データ等】

教職課程委員会要項、教職課程委員会議事録、本学公式サイト「教育情報 7 教育環境について」「教育情報 11 教職課程の情報公開」

基準領域 2：学生の確保・育成・キャリア支援

基準項目 2-1 教職を担うべき適切な人材（学生）の確保・育成

- ①当該教職課程で学ぶにふさわしい学生像を「入学者受け入れの方針」等を踏まえて、学生の募集や選考ないしガイダンス等を実施している。
- ②「教育課程編成・実施の方針」等を踏まえて、教職を担うにふさわしい学生が教職課程の履修を開始・継続するための基準を設定している。
- ③「卒業認定・学位授与の方針」も踏まえて、当該教職課程に即した適切な規模の履修学生を受け入れている。
- ④「履修カルテ」を活用する等、学生の適性や資質に応じた教職指導が行われている。

【現状説明】

学科専攻ごとに「入学者受け入れの方針」に求める人材像を分かりやすく示し、教授会等において共通認識を図っている。『大学案内』、『学生募集要項』、ホームページ及び入試説明会、オープンキャンパス等を通して志願者に求める資質・能力を公開している。入試においては評価指標を定め、多様な人材確保のために一般選抜のほか、総合型選抜や公募推薦選抜、指定校推薦選抜、特待生選抜等の選抜方法を設定している。合格者に入学前課題を課し、入学前の集い（希望者）を実施して学修意欲を維持・向上できるよう大学教育への円滑な接続を図っている。

こども学専攻では、ほとんどの学生が幼稚園教諭免許状・保育士資格を取得し幼稚園・保育所・こども園・施設等へ就職することを踏まえると、「入学者受け入れの方針」の内容は教職を担うにふさわしい学生が教職課程の履修を開始・継続するための基準となっている。また、本専攻のカリキュラムの特色として、課程の中でチェックポイントとなる機会を複数回設けており、「卒業認定・学位授与の方針」、「教育課程編成・実施の方針」を鑑みたくえでも、チェックポイントの機会が教職課程の履修を継続するための基準にもなっている。学生が「履修カルテ」を記入し、履修状況を確認したり、自己評価したりする機会を設けている。教員はその「履修カルテ」を用いて学生の学修状況を把握し、適切な支援を行うようにしている。

食物栄養専攻と英語科では履修を開始する際、教職課程の履修を開始・継続するために設定した「教育課程編成・実施の方針」等を踏まえた内規と基準について説明会を実施し、学生は教職履修の意思表示をしたのち履修を開始する。教育実習履修に対しては、履修するすべての学生がこの基準を満たすことを求め教職を担うにふさわしい学生が教職課程を履修していくしくみをとっている。学生達が教職課程を履修継続するために、『履修カルテ』等を用いて自らの資質の振り返りを行わせている。

【長所・特色】

こども学専攻では、ほとんどの学生が幼稚園教諭免許状・保育士資格を取得することを希望しており、クラス担任やゼミ担当教員がキャリア支援課等と連携を図りながら学生の教職に就こうとする意欲や適性を把握し支援している。少人数指導でのきめ細やかな指導の強みを活かし、個別指導及び学生一人一人が適正な進路を選択できる体制を構築している。また、専攻のカリキュラムの特色として、課程の中でチェックポイントとなる機会を複数回設けており、「卒業認定・学位授与の方針」、「教育課程編成・実施の方針」を鑑みたうえでも、そのチェックポイントの機会が教職課程の履修を継続するための基準にもなっている。実習科目においては、実習担当が中心となって個々の学生に合わせた学修支援を実施している。専攻のスタッフ全員が学生一人一人に向き合い、ゼミの活動や「履修カルテ」において学生の学修の状況も把握し、必要な支援を提供している。

食物栄養専攻・英語科においても卒業までの2年間、クラス担任や教科担当教員が中心となって一人一人の学修を支援するほか、教育実習や教科指導科目等においては、教職担当教員が中心となって学生の適性や資質に応じた教職指導を実施している。学生一人一人に向き合い、「履修カルテ」において学生の学修の状況を把握し、必要な支援を提供している。また、教職担当科目教員は実務経験のある専任教員が多く、学修支援のみならず学生生活及び就職支援においても重要な役割を果たしている。

【取り組み上の課題】

全学的に、入学定員が募集定員を下回る状況が続く中、教職を担うべき適切な学生の確保、教職課程に即した適切な規模の学生が履修できるよう工夫・改善に努め、育成のためにも学生募集やガイダンス、関係機関との連携等工夫・改善に努めていく必要がある。

こども学専攻では、学生自身の履修継続等について「卒業認定・学位授与の方針」、「教育課程編成・実施の方針」を踏まえてチェックする機会の充実を図る上で、保育者を目指す学生一人一人の育成指標となるよう履修カルテ等の活用のあるあり方の理解を促進することが課題である。

食物栄養専攻・英語科では教育実習履修に関する内規の基準を満たさず、2年次の教育実習を履修することができないケースもある。

【根拠となる資料・データ等】

『学生便覧』、『学生募集要項』、シラバス、カリキュラム・ツリー、教授会議事録、
大学案内、公式サイト、「令和4年度教員の養成の状況についての情報」

基準項目 2-2 教職へのキャリア支援

- ①学生の教職に対する意欲や適性を把握している。
- ②学生のニーズや適性の把握に基づいた適切なキャリア支援を組織的に行っている。
- ③教職に就くための各種情報を適切に提供している。
- ④教員免許状取得件数、教員就職率を高める工夫をしている。
- ⑤キャリア支援を充実させる観点から、教職に就いている卒業生や地域の多様な人材等との連携を図っている。

【現状説明】

クラス担任制をとり、教職担当科目教員は実務経験のある専任教員が多く、学修支援のみならず学生生活及び就職支援においても重要な役割を果たしている。その上で、教職課程委員会、教務課、学生支援課、キャリア支援課等と連携を図りながら学生の教職に対する意欲や適性を把握している。

キャリア教育科目として「キャリアガイダンス」や「キャリアデザイン」等を位置づけ、充実したキャリア教育科目の中で、就職活動の心得、社会人としての常識・態度、将来のキャリアプラン等々について学びの機会が構築され適切なキャリア支援を組織的に行っている。教職関連の就職情報についても、逐次、情報提供を行い教員就職率を高める工夫を行っている。

こども学専攻では、ピアノの習熟度別の少人数指導等を行っており、2年次には「ゼミ」に分かれ、少人数グループによる保育実践演習科目「こども学研究」を位置づけている。クラス担任及びゼミ担当教員は専任教員が務め、学修支援のみならず学生生活及び就職支援においても重要な役割を果たしている。

食物栄養専攻・英語科でも現任教員として活躍する卒業生などによる体験発表や鹿児島県教育庁人事管理監による講話等を開催し、教職履修者は全員参加している。

他にも、教員採用試験対策講座を開催したり、4年生大学へ編入学し一種免許状の取得を目指す学生のために編入学試験対策(個別指導)を実施したりしている。

【長所・特色】

全学的にクラス担任や教職担当教員がキャリア支援課等と連携を図りながら学生の教職に就こうとする意欲や適性を把握、支援し、2年間を通じた段階に応じたキャリア教育科目も充実している。

こども学専攻では、1年次に本学独自の科目「こども学フィールドワークⅠ・Ⅱ・Ⅲ」において地域の子どもたちや保育者、保護者と関わったり、キャリア教育科目や教職関連科目等において教職に就いている卒業生や地域の幼稚園教諭、保育教諭、園長等を招き、講話していただいたりする機会を設けており、教職に就いている卒業生や地域の多様な人材等との連携を図っていると言える。地域の保育施設と連携協定を結んだことにより、学生自身が園に出向く機会もこれまでより充実させることができている。

食物栄養専攻・英語科では履修者が少ないという利点を生かし、きめ細やかな指導を行うことにより、学生の教職に対する意欲を喚起し、学生の興味・適性を把握したキャリア支援を実施している。希望する学生には期限付き採用を支援し、卒業後も希望者には本採用に向けて教員採用試験対策講座を開き継続的に支援している。

【取り組み上の課題】

全学的に卒業生の動向、就業状況、就職先からの評価に耳を澄ますように努めたい。アフターフォローなどの色々な仕組み（特に就職先へのアンケートや聞き取り調査等）を充実させていく必要がある。

こども学専攻では、より学生のニーズに応えられるような相談体制およびその実現のための関係部署との緊密な連絡体制の構築、地域の幼稚園協会等や他の養成校との情報交換による情報収集を行っていく必要がある。

食物栄養専攻・英語科では教職を選択することにより、履修科目が多くなり学生の負担が大きいためカリキュラムの見直しに取り組んでいる。教員採用試験の実施と内定発表が、他の企業等と比べて遅いため、教職履修者の意欲を継続させることも課題となっている。教諭として就職希望の学生及び卒業生のニーズに応えられるような相談体制を関係部署と連携しながら構築し、採用試験対策や情報収集を積極的に行っていく必要がある。

【根拠となる資料・データ等】

『学生便覧』、シラバス、履修モデル、カリキュラム・ツリー、キャリア支援課ガイダンス資料、「履修カルテ」、教授会議事録、鹿児島市保育園協会と鹿児島純心女子短期大学との連携協力に関する包括協定書、聖マリア学園聖母幼稚園と鹿児島純心女子短期大学との連携協力に関する包括協定書

基準領域 3：適切な教職課程カリキュラム

基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

- ①教職課程科目に限らず、キャップ制を踏まえた上で卒業までに修得すべき単位を有効活用して、建学の精神を具現する特色ある教職課程教育を行っている。
- ②学科等の目的を踏まえ、教職課程科目相互とそれ以外の学科科目等との系統性の確保を図りながら、コアカリキュラムに対応する教職課程カリキュラムを編成している。
- ③教職課程カリキュラムの編成・実施にあたり、教員育成指標を踏まえる等、今日の学校教育に対応する内容上の工夫がなされている。
- ④今日の学校における ICT 機器を活用し、情報活用能力を育てる教育への対応が充分可能となるように、情報機器に関する科目や教科指導法科目等を中心に適切な指導が行われている。
- ⑤アクティブ・ラーニング（「主体的・対話的で深い学び」）やグループワークを促す工夫により、課題発見や課題解決等の力量を育成している。
- ⑥教職課程シラバスにおいて、各科目の学修内容や評価方法を学生に明確に示している。
- ⑦教育実習を行う上で必要な履修要件を設定し、教育実習を実りあるものとするよう指導を行っている。
- ⑧「履修カルテ」等を用いて、学生の学修状況に応じたきめ細かな教職指導を行い、「教職実践演習」の指導にこの蓄積を活かしている。

【現状説明】

教職課程科目に限らず、卒業単位 62 単位を有効活用して建学の精神に根付いた教育理念のもとキリスト教ヒューマニズムに基づく真の教育者としてふさわしい人間性の育成や体験を重視した実践型カリキュラムで教職課程科目とそれ以外の科目との系統性の確保を図りながら教職課程教育を行っている。教員育成指標を踏まえながら、時代の背景や要請を踏まえつつ主体的な学びを推進するため、真の意味で社会の発展と平和に貢献できる教員養成を目指している。

教職課程シラバスには①授業の到達目標 ②ディプロマ・ポリシーとの関連 ③評価方法 ④課題に対するフィードバックの方法 ⑤授業の展開計画 ⑥授業計画表(第 1~15 回(30 回))および担当者 ⑦アクティブ・ラーニングの概要 ⑧ICT 活用の概要 ⑨履修上の注意事項 ⑩準備学習、テキスト、参考文献という内容を学生に明確に示している。

学生は 1 年前期・後期、2 年前期・後期の各期に「履修カルテ」を記入し、履修状況を確認したり、自己評価したりする機会を設け、教員はその「履修カルテ」を用いて学生の学修状況を把握し、一人一人にコメントを記載したり、個別指導を行ったりしている。2 年後期の授業で「履修カルテ」を活用し、学生自身の学修状況の振り返りに役立てたり、成果と課題を見出す際の参考にしたりするなどして活用しており、その蓄積を活かしていると言える。

こども学専攻のカリキュラムは資格関連科目が専門教育科目のほとんどを占め、開設科目・設置単位数は、文部科学省や厚生労働省の定めによって規定されており、「こども学」の学びを深めるカリキュラムとなるよう編成し、「反省的实践家」をモデルとした保育者を養成するカリキュラ

ムとなっている。こども学専攻では資格関連科目のしほりという条件の元、「こども学」「反省的実践家」のモデルを実現するため、体験的な学びの機会となる学内外での実習をチェックポイントとしている。入学から実習まで、実習から実習まで、実習から卒業までの期間に、「学ぶ⇄体験で確認する」という往還するサイクルを複数回経験できるカリキュラム構成とすることで、らせん構造的な学びが経験されることを期待している。すべて科目においてアクティブ・ラーニングを取り入れており、活動内容もシラバスにも具体的に示され、実践している。課題発見や課題解決等の力量を育成していると言える。実習の実施にあたっては「幼稚園教育実習実施要項」及び「幼稚園教育実習及び保育実習に関する内規」を設け、事前事後指導に臨む態度や実習を許可する条件等について定め、学生に明示している。

食物栄養専攻及び英語科の教職課程カリキュラムは、教育職員免許法・同免許法施行規則・教職課程認定基準等の法令規程に基づいて、課程認定を受けた科目を設置している。科目設置については、食物栄養専攻と英語科の共通開設による教職科目が多い。

【長所・特色】

こども学専攻が定める学修成果が、概ねカリキュラムを通して獲得される編成となっている。その中で幼稚園教諭免許状と保育士資格のいずれか、または両方を取得しない学生でも、学びやすくなるよう、専門教育科目の系列ごとに設置されていた取得必要単位制限をなくしている。さらに、カリキュラム改善により幼稚園教諭二種免許状は卒業要件と同じ単位で取得可能となった。

食物栄養専攻では、食と健康に関する資格取得を目指す学修を通じて食に関する総合的、体系的な知識と技術を学ぶカリキュラムとなるよう編成している。実習・実験・演習科目も多くグループ活動や課題解決型学習を組み合わせた学びとなっている。

英語科では、すべての専門教育科目でアクティブ・ラーニングを取り入れており、活動内容はシラバスに具体的に示し実践している。また、鹿児島県教育庁 ICT 活用班の指導主事を外部講師として招き、「教育における ICT 活用」の授業を実施している。また、現役の英語教員を招いた模擬授業で、ICT 機器を活用した教科指導法を体験し、学生自らが指導案作成や模擬授業に活用している。

【取り組み上の課題】

情報機器に関する科目等を中心に、今後タブレットやデジタル教科書等を整備し ICT 教育環境の充実を図り、令和の日本型学校教育を担い得る汎用的技術を習得するため、それらを活用した教科指導に取り組むことが今後の課題である。

食物栄養専攻の栄養教諭二種の教職課程においては、英語科との共通開設により、法定単位数（3単位以上）を超えて、7単位の科目の履修を設定している区分（道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目）があることが長年の課題となっている。

【根拠となる資料・データ等】

アセスメントプランに基づく検証・評価、シラバス、科目配当表、教職課程に係る内規、
教職課程履修規程

基準項目 3-2 実践的指導力養成と地域との連携

- ①取得する教員免許状の特性に応じた実践的指導力を育成する機会を設定している
- ②様々な体験活動（介護等体験、ボランティア、インターンシップ等）とその振り返りの機会を設けている。
- ③地域の子どもの実態や学校における教育実践の最新の事情について学生が理解する機会を設けている。
- ④大学ないし教職課程センター等と教育委員会等との組織的な連携協力体制の構築を図っている。
- ⑤教職課程センター等と教育実習協力校とが教育実習の充実を図るために連携を図っている。

【現状説明】

こども学専攻では、1年次から「こども学フィールドワークⅠ・Ⅱ・Ⅲ」において地域の子どもたちや保育者、保護者と関わる機会を設けている。具体的には「純心こども講座」や「こどもバンド」では、学生が主体となって企画したり、運営に関わったりするなど、実践的指導力を育成する機会となっている。また、「チャイルドウォッチング」では、地域の保育施設と連携協定を結んだことにより、学生が園に出向き、教育実習の開始前から保育の実践現場を理解する機会にもなっている。ボランティアとして幼稚園、保育所、児童福祉施設、放課後児童クラブ、学童保育所等で保育現場を体験する活動を推奨している。1年後期「こども学概説」「幼児教育の方法と技術」や2年後期「保育・教職実践演習（幼稚園）」では、保育現場で活躍する園長や幼稚園教諭、保育教諭等を外部講師として招聘し、御講話をいただくなどしている。このことから、地域の子どもの実態や園における保育実践の最新の事情について学生が理解する幅広い機会を設けていると言える。また、定期的に幼稚園教育実習連絡会を開催し、鹿児島県私立幼稚園協会と鹿児島県内の養成校との連絡会に出席したりしている。実習を依頼するにあたり、養成校同士で事前に実習園の依頼先等について連絡・調整を行っている。平等かつ円滑な受け入れ先の配当や保育者養成における現状や課題の共有・意見交換を行い、連携協力の体制を整えており、教育実習の充実のため必要な連携を図っていると言える。

食物栄養専攻では、長年栄養教諭を経験してきた担当教諭が実践的指導を教授し、特性に応じた実践的な指導力の育成に努めている。鹿児島市の食育フェスタで地域の子たちに食育ボランティアを行ったり、コロナ禍以前は特別支援学校へ訪問し児童生徒と共に給食を食べたりする試食会や交流会等ふれあいの機会を設け、訪問視察後の振り返りも授業内で行っていたが、ここ4年間実施できず、特別支援学校の栄養教諭に授業内で講話をしていただいている。1年次にインターンシップでの厨房体験はあるが、学校の現場は含まれていない。地域との連携としては「教職実践演習(栄養教諭)」の授業において鹿児島県学校給食会で県内の学校給食の現状や課題等について研修している。また、定期的に鹿児島県内の養成校との連絡会を開き、実習を依頼するにあたり、養成校同士で事前に実習依頼先等について連絡・調整を行っている。平等かつ円滑な受け

入れ先の調整や栄養教諭養成における現状や課題の共有・意見交換を行い、連携協力の体制を整えており、教育実習の充実のため必要な連携を図っている。実習後は実施を見合わせている「教育実習懇談会」に代わり「実習訪問にかかる報告書」を実習訪問後に教職課程委員会へ提出してもらうことで、実習先学校等との連携・意見交換、教職カリキュラム改善に役立てている。

英語科では、取得する中学校教諭二種免許状の特性に応じた実践的指導力を育成する機会を設けている。まず、長年英語教諭を経験し鹿児島県の指導主事として働いてきた実務経験を持つ教員が「英語科教育法 II」や「教育実習の研究」の授業において、実践的な英語活動の指導や指導案の添削、模擬授業の指導を行っている。次に、1年次から卒業まで、各学期、現職の中学校英語教員を招聘し、指導講話や模擬授業をしていただき、教職の学生との意見交換会を実施している。さらに、2年間の総括として、「教職実践演習（中）」において中学校の授業参観と担当教員との意見交換会を実施している。

【長所・特色】

こども学専攻では、「こども学」の学びを深めるとともに、「反省的实践家」をモデルとした保育者を養成するカリキュラムとなるよう編成している。1年次は、子ども観を育み、保育者としての基本が身につくよう基本理論や保育の実践的な方法を学べるようにしている。1年後期に幼稚園教育実習Ⅰを、2年前期に幼稚園教育実習Ⅱを実施する。指導案の立案や記録の取り方など、実習に向けて具体的に学ぶと共に専門的な科目にも取り組んでいく。実習を重ねたり、学内で専門的な科目を学んだりして実践的指導力が高まるようにしている。2年後期では、これまでの講義と実践で得た学びを統合し、「保育・教職実践演習（幼稚園）」や「保育内容総論」などで総合的な保育観を培い、卒業研究へとまとめる取り組みを通して実践的指導力が育成されるようにしている。定期的に本専攻が主催する幼稚園教育実習連絡会を開催したり、鹿児島県私立幼稚園協会が主催する鹿児島県内の養成校との連絡会に出席したりしている。また、実習を依頼するにあたり、養成校同士で事前に連絡・調整を行っている。平等かつ円滑な受け入れ先の配当や保育者養成における現状や課題の共有・意見交換を行い、連携協力の体制を整えている。

食物栄養専攻では、食と健康に関する資格取得を目指す学修を通じて食に関する総合的、系統的な知識と技術を学ぶカリキュラムとなるよう編成されており、栄養士としての総合的知識と技術を身に付けると同時に、責任感と教育的愛情を持って食育を推進し、地域社会と協働できる栄養教諭の養成を行っている。

英語科では、系列中学校である鹿児島純心女子中学校の授業参観を実施し、担当英語教員との意見交換会を実施、「教職実践演習（中）」において中学校の授業参観と担当教員との意見交換会を実施している。他には、図書館とキャリア支援課に、教育関係の雑誌や新聞などを備えており、これらの雑誌などから、子供の実態や教育実践の最新情報を入手することが可能である。

英語科、食物栄養専攻では実習訪問後は、「実習訪問にかかる報告書」を教職課程委員会へ提出してもらい、教育実習状況を把握するとともに、教育実習協力校等と連携し、教職指導に活かしている。また、鹿児島県が求める教員像や鹿児島県の教育事情などに関して、鹿児島県教育委員会による指導講話を実施している。

【取り組み上の課題】

こども学専攻では、より多様な保育現場における実践および最新の情報を得るため、実習園や地域の園、教育委員会等と幅広く連携を図ることでより実践的指導力を養成する取り組みの充実を図っていく必要がある。また昨今の保育者不足は大きな課題のひとつとなっているため、幼稚園協会や他の養成校等と連携して保育の魅力を地域社会に発信していく必要があると考える。

食物栄養専攻、英語科でも学校現場で活躍する現職教諭等から直接話を聞く機会を設けているが、地域の子どもの実態について学生が理解する体験が少ないことが課題である。座学だけでなく、地域の子どもたちと交流する機会を多く設けるために、学校や教育委員会等と幅広く連携を図っていく必要がある。

【根拠となる資料・データ等】

シラバス、実習連絡会資料、教職課程委員会要項、県教委人事管理監指導講話資料、鹿児島県教員育成指標、鹿児島県教員資質向上協議会資料、幼稚園教育実習連絡会資料、教員養成校等と鹿児島県私立幼稚園協会との連絡会資料

III 総合評価

本学の令和4年度の教職課程運営についての総合評価は以下の通りである。

まず基準領域Ⅰの「教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み」においては、「豊かな人間性と高い専門的能力を備えた教員、真の意味で社会の発展と平和に貢献できる教員の養成」を目標に、本学が与えられた社会的・地域的使命に応える次世代を担う教育者の育成に向けて、教職課程の教員のみならず学科専攻の全教職員がカリキュラムの目的・目標を共有し、少人数制の強みを生かしたきめ細やかな教員養成となっており、一人一人の学生に寄り添った教職課程運営ができているといえる。

基準領域2「学生の確保・育成・キャリア支援」では、入学者の減少や食物栄養専攻、英語科における教職履修者の減少・履修指導等の課題はあるが、2年間を通じてキャリア教育関連科目が充実しており、教職希望者への就職支援もきめ細かく教職希望者既卒者への継続的支援も行っている。また、卒業生、多様な人材との交流も充実しており、教員と関係職員(キャリア支援課・事務局)の連携が図られている。

基準領域3「適切な教職課程カリキュラム」においては、こども学専攻はカリキュラム改善が図られているが、今後、食物栄養専攻・英語科でも教職履修者の育成のための適切な教職課程カリキュラム改善に具体的に取り組んでいかなければならないと考える。また、ICT教育(タブレット端末活用の模擬授業)や教育現場の変化に応じた教員養成、こどもの実態を理解する体験的学習を取り入れたカリキュラム編成などが今後の検討課題である。

IV 現況基礎データ一覧

令和5年4月1日現在

法人名	鹿児島純心女子学園		
大学名称	鹿児島純心女子短期大学		
学科・専攻名称（教職課程）	生活学科こども学専攻 生活学科食物栄養専攻 英語科		
1 卒業者数、教員免許取得者数・教員採用者数			
① 令和4年度卒業者数	生活学科こども学専攻	34名（専攻全体）	
	生活学科食物栄養専攻	27名（専攻全体）	
	英語科	44名（学科全体）	
② ①のうち就職者数	生活学科こども学専攻	32名（専攻全体）	
	生活学科食物栄養専攻	21名（専攻全体）	
	英語科	37名（学科全体）	
③ ①のうち、教職免許状取得者数	生活学科こども学専攻	34名	
	生活学科食物栄養専攻	5名	
	英語科	4名	
④ ②のうち、教職に就いた者の数 （正規採用＋臨時的任用の合計数）	生活学科こども学専攻	18名※	
	※幼稚園・認定こども園への就職者の合計		
	生活学科食物栄養専攻	0名	
	英語科	1名	
④のうち、正規採用者数	生活学科こども学専攻	18名※	
	※幼稚園・認定こども園への就職者の合計		
	生活学科食物栄養専攻	0名	
	英語科	1名	
④のうち、臨時的任用者数	生活学科こども学専攻	0名	
	生活学科食物栄養専攻	0名	
	英語科	0名	
2 教員組織			
生活学科 こども学専攻	教授3名、准教授4名、講師2名		
生活学科 食物栄養専攻	教授3名、准教授2名、講師1名		
英語科	教授5名、准教授2名、講師4名		